

2018/11/04

「わたしのところに来なさい」

「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ 11:28)

「疲れた人、重荷を負っている人」とは、どのような人でしょうか。病気や仕事上の問題や人間関係など、一人一人負うものは異なりますが、様々な問題を抱えた時、私たちは、解決の道求めて模索します。この時、問題が解決されることを、一般的に救いと言います。つまり、「疲れて重荷を負っている人」とは、「救いを求めている人」という意味になるのです。

しかし、現実問題として、自分の抱える問題を解決してくれそうな人が見つかったとしても、その人が偉い人であればあるほど、なかなか会うことは困難です。素晴らしい名医を見つけても、診察を受けるためには、時間がかかり、さまざまな手を尽くさなくてはならないものです。

ところが、イエス・キリストは違います。イエス様は、救いを求めるすべての人に「誰でも私のところに来なさい」と言われました。そればかりではなく、自らが困難な人のところに出向き、イエス様のほうから声を掛けてくださいました。イエス様は、ご自身のところに来るための条件をいっさいつけないのです。

ここに、人に対する神の同情を見ることができます。私たちも困っている人がいれば助けてほしいという思いは持っていると思いますが、人は自分の立場を維持した上で、それよりも低い位置にいる人達を助けるものです。しかし、神は、私たちのところまで下りてきて、私たちを助けてくださいました。しかも、王としてではなく、みんなから蔑まれるような姿で降りてこられ、この世の苦しみを負う人々と同じ生活をし、そして同情を示されたのです。人は同情を示す相手に条件をつけますが、神はいっさい条件をつけません。神の同情は、私たちの同情とは質が異なるのです。

それは、本当の愛とは、相手を不安にさせないものだからです。例えば、天皇陛下の晩さん会に招待されれば不安になりますが、同じ境遇の友達から招待されても不安にはなりません。そこで、神は私たちと同じレベルに立ってくださったのです。ここに神の愛があります。

病気という苦しみを負う人が頼りにする医者という存在は、治療法を示し、どうすれば良いかあなたにアドバイスを与えてくれます。しかし、イエス・キリストは、外側から何かをするようにとアドバイスするのではなく、私あなたがたを休ませてあげると言われます。どんな素晴らしい名医でも、24時間あなたに付き添うわけではありません。しかし、イエス様は、24時間私が共にいるから大丈夫だと言われるのです。

聖書は「神は言葉である」と語っています。神のことは真実であり、嘘がないからです。疲れ、苦しみ、重荷を負うすべての人に対して、神はどのようなことを約束しておられるのでしょうか。

1. あなたの責任を問わない

問題を抱えてイエス様のもとに行く時、イエス様は「これは誰の責任か」という問いかけは一切なさいません。

ある時、目の見えない人について、弟子達が「彼が見えないのは誰が罪を犯したからですか」と、イエス様に質問をすると、イエス様は「誰のせいでもなく、神の栄光が現れるためだ」とおっしゃいました。

人は、自分がつらくなると、責任は誰にあるかを考え、ある時は自分のせいだと自分を責め、ある時は周りの人を責めます。自己責任・自業自得などと自分を責めたり周囲から責められたりし、悪かった点を反省した上で、「では、解決の道を考えよう」と次の道に進むのが、人間のやり方です。だから、私たちは神のもとに行くとき責められ、責任を問われると思ってしまうのです。しかし、神はあなたに対して一切責任を問うことはなさらず、救いを与えてくださるのです。

2. あなたの罪を問わない

私たちは皆、自分の醜さや弱さを人に隠して生きています。ですから、神のもとに行くとき、その自分の罪が問われるのではないかと心配します。しかし、神はあなたの罪を問いません。かえって「あなたの罪は赦されているから、安心しなさい」と言ってくださるのです。それは、イエス様は罪人の仲間だからです。

「人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『あれ見よ。食いしんぼうの大酒飲み、取税人や罪人の仲間だ。』と言います。でも、知恵の正しいことは、その行ないが証明します。」(マタイ 11:19)

イエス・キリストはこの地上に降りてきて、罪人の友となってくださいました。神は、自分の罪を意識している人の罪を問うことはなさいません。しかし、罪を意識していない人に対しては、なぜ自分を偽るのかと問い続けます。それは、あなたが罪を自覚し、キリストがあなたの友であることを示すためです。

3. あなたが何者かを問わない

この世界で問題の解決を願い出ると、「あなたは何者なのか」と身分を明らかにすることを求められます。しかし、神は、あなたが何者なのかを問いません。それは、すでにあなたをご存知だからです。神は、あなたが、ご自分が造ったご自分の子であることを知っておられます。今私たちが神から離れているのは、迷い出ただけであり、もともと神の子だということを神は知っておられるのです。ですから、私たちが神の元に行くならば、何も問われず、ただ抱きしめてくださるのです。

イエス様は、放蕩息子のたとえによって神と私たちの関係を教えてくださいました。自分の罪に絶望し、食べるものもなくなり疲れ果てた息子が、父のもとに立ち返る決心をして家に近づくと、父親は何も言わずに走り寄ってきて抱きしめ、今まで何をしていたのか問うど

ころか、きれいな服を着せ、指輪を与え、ごちそうを用意しました。神はこのような方ですから、私たちはただ神のもとに行きさえすればよいのです。

■なぜ神はそこまでなさるのか

神がここまでのことをしてくださるのは、私たちの疲れ・苦しみ・重荷は、私たちが選んで手にしたものではないことを知っているからです。

私たちが重荷や苦しみを負っているのは、アダムとエバが蛇にだまされて神との結びつきを失ったために入り込んだ死が原因です。そのために、人は生まれながらに神を知らない者となり、滅びる体を持つ者となったのです。人が病気になるのも、天変地異が起きるようになったのも、すべて死が入り込んだことが原因です。

神は誰よりもそのことを知っておられますから、神の目には私たちは同情すべき存在であり、神は私たちの重荷・苦しみをなんとかしてあげたいと願っておられるのです。神にとって私たちは、裁く相手ではなく、ただ助けてあげたい存在なのです。親が自分の子どもが困っているのを見て助けたいと願うように、神は私たちが助けたいと願い、人の姿を取って死の世界に來られました。それがイエス・キリストです。

イエス様は、皆から蔑まれバカにされるような罪人達と、共に食事をし、共に生きてくださいました。そして、イエス様ご自身もまた、自分は罪人ではないと自認する人々から馬鹿にされました。

こうして神ご自身が私たちの仲間となり、「安心してわたしのもとに來なさい」と語られました。そして、神のもとに行くならば、何も問われることなく、ただ抱きしめてくださるのです。神は、実に信じがたいほどの愛で私たちが愛してくださっているのです。

■どうやって神のもとに行けばよいのか

それほど素晴らしい愛を、私たちはどうやって受け取ればいいのでしょうか。神のもとに行くには、どうすればいいのでしょうか。

それは、ただ「神様、助けてください」と言えばいいだけです。何も考えずに、つらい時、ただ「神様、助けてください」と祈ればいいのです。

神は、いろいろと問い正したり、反省や悔い改めを強いたりすることはなさいません。この世の人々では、そうするかもしれませんが、神様は、何も言わずに助けてくださいます。ですから、ただ「あわれんでください」と祈ればよいのです。

多くの人は、つらくなると、神の呼びかけがわかっている、「本当だろうか」とためらってしまうものです。しかし、立ち止まったりためらったりすればするほど、神の呼びかけが小さく聞こえるようになります。そのため、あきらめるか、ごまかす生き方になってしまうのです。これが人の愚かさです。

「立ち止まってはいけない。ためらってはいけない。神の声を聞いたら、今日立ち返りなさい。今助けを求めなさい。」これが、聖書が繰り返し教えていることです。神がここまで来て

呼びかけてくださっているというのに、なぜ自分で抱えて苦しもうとするのでしょうか。ただ「主よ！」と叫ぶとき、あなたの魂は神にしっかりと抱きかかえられるのです。自分で悩んだり苦しんだりするのはやめ、理屈ではなく、ただ神の呼びかけに応答し、神のもとで安らぎを得ましょう。